

S部門

(肢体不自由教育部門)

数量概念の獲得前の教材

教材ガイド



平成27年度作成

東京都立鹿本学園

目 次

- 右・左、上・下
- 合わせよう！かぞえよう！
- 色と形を弁別する力を育てる

右・左と上・下 ～握ってできる右・左と上・下の学習～

対象児童・生徒

・対象物を握ることはできて、号令で手を放すことができなかつたり、投げてしまつたりする生徒。

・他者とのコミュニケーションがうまくとれずにいる生徒。

S 中2 自立主



ねらい

・生徒が紐部分を握つた状態で、放さずにいられるようにする。
・慣れてきたら、一方を生徒が、もう一方を教員が持ち、右・左や上・下の学習に取り入れる。

<工夫した点>

・生徒が握りやすいように、細めのロープを用意した。
・音が出ることによって生徒の興味を引き出せるのではないかと思い、鈴を付けた。
・右・左の学習の際に使う黄色と緑色のテープをロープにつけた。

<生徒の様子>

・鈴の音に興味をもち、握つたロープの部分を放さずに持ち続けることができた。

教材の使い方 (指導方法)



①2人1組で、左右に出ているロープの部分をしっかり握り、鈴を鳴らしながら右・左や上・下を確認する。

②①の動きに慣れてきたら、大きな輪になってロープを放さないように言葉かけを行いながら、「右・左」や「上・下」のかけ声に合わせて動きを入れる。



合わせよう！かぞえよう！ ～どれ？いくつ？～

対象児童・生徒

- ・対象物を追視、注視したり、形や色を見分けたりすることが苦手な生徒に、見る力、1対1対応の課題として取り組みます。
- ・麻痺で物が掴みにくい生徒、物を掴んでも投げてしまう生徒に、操作性や空間把握の課題として取り組みます。
- ・花の種類や色の名前のマッチングや3までの数の学習の課題として取り組みます。

S 中2 学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

プランターとお花、花瓶を使って、手の操作性、空間把握、形や色の弁別、物や色の名前の学習、1対1対応から3までの数を学習する。

- ・ブラックライトで光らせることで、意識が向きやすくなる。
- ・プランターから赤い花が咲くため、注視しやすく、どこに手を持っていけば良いのかをわかりやすくできる。
- ・お花の収穫をして手にしている部分をお花から枝に持ちかえて花瓶に入れてから数を数える。花瓶に押し込むと取れない仕組みになっている。
- ・集団で同じ題材で個別課題に取り組める。

教材の使い方 (指導方法)

・だるまさんが、「赤い(黄色い)花orカーネーション(チューリップ)がわからないよ～」「かぞえられないよ～」と言ったら、かぞえて～んぐが登場し、一緒に「選んで」「数えて」助けてあげる。

⇒追視や注視する課題の生徒は、ブラックライトの光をみるようにする。

⇒選ぶ課題の生徒の場合は、①お花の絵カードまたは色カードを選ぶ②お花の絵カードまたは色カードを視覚支援としてお花を選ぶ。麻痺がある生徒の場合、教員の手で掴む補助。投げる生徒の場合は、教員の手で投げる前に補助する。

⇒言葉理解の課題の生徒は、言葉の「赤(黄色)」「カーネーション(チューリップ)」を天狗さん言って、絵カードの支援なしでお花を選ぶ。

⇒数の学習をする生徒は①お花の絵カード(1～3本)から同じ数のお花を収穫して花瓶に挿す。

⇒たくさんの中から探して数える課題の生徒はプランターではなく、花束にして提示する。



色と形を弁別する力を育てる

色や形に興味をもって楽しく弁別学習します

対象児童・生徒

・色や形の弁別を伸ばしたい生徒に

高2 A学習グループ

自立活動を主とする 教育課程



ねらい

・色と形の弁別ができているのか、いないのか？をカードを使って確認しながら学習を深めていくのがねらいです。

教材の使い方 (指導方法)

1. ○と基本の色「赤・青・緑・黄」の4色の組み合わせカードを用意して、色の弁別をする。できたら他の色で学習し、色の弁別だけを進める。
 2. 1. と並行して赤の○、△、□のカードで形の弁別を学習する。出来たら他の色のカードで同じように弁別の学習を行う。
 3. 1. と2. が進んだら、基本の色「赤・青・緑・黄」のカードの○、△、□を用意して、色と形をランダムに使いながら色と形の弁別学習を行う。
 4. 好きな色を選ばせ、そのカードで形と組み合わせて弁別の学習をするなど、楽しく学習を進める。
- おまけ：絵本等を見ながら「この花と同じ色はどれ？」「今日着ているTシャツと同じ色は？」など、展開していく。

1



2



3



4



5

